

## 《本号の表紙絵》

### 『アンドレアス・ヴェサリウスの解剖学』扉絵

(*Andrae Vesalii Anatomia*, Joan. Anton. et Jacobum de Franciscis, Venice, 1604)

アンドレアス・ヴェサリウスの『人体の構造について』の初版（1543年）と第二版（1555年）の扉絵には、多数の見学者の真ん中で、腹部を解剖するヴェサリウスの姿が描かれている。

ヴェサリウスが亡くなって40年後の1604年に、タイトルを変えてヴェネツィアで出版された版の扉絵は、初版・第二版とは異なっている。見学者の数が10名ほどに減少し、代わりに解剖劇場の外観が描かれ、解剖された体や解剖道具が配置されている。初版・第二版では中年の男性として描かれていたヴェサリウスは、1604年版では老齢の男性の姿になっている。豊かなあごひげと右手で天を指差すポーズはラファエロの《アテネの学堂》に描かれるプラトンの姿を彷彿とさせる。

1604年版では見学者の二名に名が付されている。手前左側が16世紀のヴェネツィアで活躍した外科医ジョヴァンニ・アンドレア・デッラ・クローチェ、手前右側がスペイン出身のファン・デ・ヴァルヴェルデで、どちらも熱心にヴェサリウスの解剖示説を聴講している。16世紀後半に広く普及していたヴァルヴェルデの解剖学書は、その図版をヴェサリウスの図版から盗用したことでヴェサリウスから非難を受けてはいたが、1604年当時の有名な医学者二人を教えた人物としてヴェサリウスを位置づけようとしていたと窺わせる扉絵である。

撮影に使用した書籍は小川鼎三先生旧蔵（現在は順天堂大学医史学研究室「小鼎文庫」収蔵）のものである。

（澤井 直）